



地元野菜の販売などを通じ来場者と交流する女性会員

女性会員による地元野菜や雑貨類の販売コーナーをはじめ、ガラス細工の塗り絵やリース作りなどが楽しめる体験コーナー、ガラガラ抽選会、キッチンカーなど、多くの人でにぎわいました。

子どもたちに紀南の特産物に親しんでもらおうと、紀南地域本部は今年度も11月から12月にかけて、田辺から串本までの小・中学校74校に梅干しとミカンを贈呈しました。

贈呈は今回で18回目。贈呈式は田辺市立鮎川小学校、白浜町立西富田小学校、上富田町立朝来小学校、すみ町立周参見中学校、串本町立串本小学校と、うちの杜学園小学校の6校で行われました。11月11日には鮎川小で贈呈式があり、J Aの大炭敦史本部長と佐武範彦副本部長が梅干しと

女性会

「田辺ミニフェスタ」

紀菜柑に約1500人が来場

J Aわかやま女性会 紀南地域本部田辺ブロックが10月25日、ファーマーズマーケット紀菜柑と連携した「田辺ミニフェスタ」を開き、約1500人が来場しました。

本取り組みは、管内農産物の消費拡大と国産国産運動の展開を促すことを目的に、紀菜柑と連携し行っています。当日は、新米を使った梅じゃこおにぎり（先着200食限定）も無料配布しました。

ざわいました。

梅とミカンどうぞ

小中学校74校に贈呈



児童代表に梅干しとミカンを贈呈する大炭本部長と佐武副本部長（鮎川小で）

ミカンを児童代表に手渡ししました。

大炭本部長からは、本県の梅とミカンの生産量について、ミカンは20年連続、梅は60年連続日本一であることを説明。「梅は60%以上、ミカンは約25%のシェアを占めており、J Aから出荷されるミカンは選果場の糖酸度センサーによっておいしいものだけを選び、選りすぐって出荷されています」と話しました。

6年生児童代表の小原楓彩さんからは「梅とミカン、どちらも大好きなので食べるのが楽しみです。ありがとうございます」との言葉がありました。

この活動は地域貢献活動の一環として、J A共済の協力を得ています。

わたしのおもい



紀南地域本部・営農部長 原 大輔

異常気象の中で

「今年は秋がやってくるのか!？」と思うほど異常な暑さが続きましたが、この原稿を執筆中の11月上旬にはようやく秋らしい季節を迎えています。

気象庁によると今年の夏（6～8月）の日本の平均気温は観測開始以降、最も暑い年となり、9～10月にかけても平均気温よりかなり高く推移しました。

気候変動による異常気象は、農作物に大きな影響を及ぼします。

夏秋期の高温により、かんきつ類では生理落果の増加、果実の日焼けや着色不良、浮皮の発生、水稲では高温による白未熟粒（心白粒・腹白粒・背白粒等）、野菜類・花き類では生育不良等が増加しています。

梅では、暖冬による早期開花により不完全花が増え、着果量が減少し凶作となった年もありました。

今後も温暖化が進行するとさらに農作物に悪影響を与え、生産安定に支障をきたす可能性が高くなります。果樹は一度植えると数十年にわたって栽培されるため、気候変動の影響を受けやすいと言われています。特にみかんは適温域が年平均気温15～18度と狭く、気温上昇が栽培に大きな影響を与えると考えられます。

そんな中、異常気象対策に向けて関係機関では色々な対策が検討されています。高温でも品質低下が起きにくい栽培技術、新しい高温耐性品種の開発・導入も検討されています。

営農部としては現場で導入できる技術や品種構成の見直し等も検討していかなければならないと思っています。

今後も続く気候変動に対応するため長期的な視点での対策を進めていきます。



アフリカゾウにサツマイモを差し出す児童

ゾウにサツマイモ

周参見小がAWを訪問

すさみ町立周参見小学校の児童が11月4日、白浜町の「アドベンチャーワールド」を訪問し、今年収穫したサツマイモを動物にプレゼン

トしました。「地域の持続可能な発展を支援する」と

のアドベンチャーワールドの方針と食農教育を支援する紀南地域本部の考えが合致して始まった取り組みで、今回で3回目となります。

この日は1・

2年生27人が訪問。茹でたサツマイモを試食して味を確かめ、食育に関するレクチャーを受けたのち、アフリカゾウにサツマイモを差し出しました。貴重な体験に児童らは「楽しい」「もっとあげたい！」と大興奮。ア

フリカゾウのほか、マレーバクやマントヒヒへの餌やりも体験しました。

同小では地元農家の全面協力のもと、児童らが6月にサツマイモ「べにはるか」の苗を定植し、10月24日に収穫。今回は200キを収穫し、アドベンチャーワールドには150キを寄贈しました。

第14期「農業塾」

全9回講座をもって修了

紀南地域本部は11月19日、第14期「農業塾」の第9回講座と修了式を中央営農経済センターで開き、受講生11人が笠松秀之副本部長より、修了証を受け取りました。

「農業塾」は、より多くの人々に食と農への関心や理解を深めてもらおうと開いているもので、今期は13人が受講しました。

最終講座は津田奈保子さんを講師に迎え、フラワーアレンジメントに挑戦。また受講生が育てたカブとハ



全9回の講座をもって修了した第14期生

事故の再現に悲鳴も

J A共済が交通安全教室

J A共済（J Aわかやま紀南地域本部・J A共済連和歌山）は11月13日、和歌山県警と連携し、神島高等学校で「自転車交通安全教室」を開きました。

通学等で自転車の利用頻度が高い生徒らの事故未然防止にむけた取り組みで、

紀州地域本部と合同開催 JAウォーク

日時 2月11日(水)
場所 クアハウス白浜 集合 7:30 出発
対象 組合員・組合員家族

申込期間 1月21日(水)まで
定員 25名
(紀州・紀南で各12名)
参加費 2,500円(弁当付き)
集合時間 午前7時15分
開催場所 休暇村 紀州加太

お申込み
お問合せ クアハウス白浜
☎0739-42-4175

動脈硬化測定を

芳養谷と田辺で実施

紀南地域本部では令和7年度、管内の組合員・利用者の健康管理増進を目的として、芳養谷・田辺の2支店で動脈硬化測定を行いま

管内の中高生を対象に定期的に開いています。スタン・トマンによる実演を通じ事故の衝撃や恐さを実感してもらおうスケアード・ストリート教育技法を用いて実施しています。

車と自転車の衝突、自転車同士の接触など、スタン・トマンが展開する交通事故の再現の数々に、生徒からは「通学等で自転車の使う機会も多く、自分たちもい

した。

10月30日には芳養谷支店に15人が訪れ、「初めて動脈硬化測定をすることで、今の血管状態を知るよい機会となりました」「測定の結果、正常範囲内だったので安心しました」といった声が聞かれました。

また当日は動脈硬化測定のほか、INBody測定や栄養士による栄養指導も行い、参加者からは「栄養士さんからの栄養指導等により、食事摂取や運動にも気を付けていきたい」と思いました」と好評でした。



つ加害者・

被害者になるか分かりません。他人事でないこと、今回のことでより感じました」といった声が聞かれました。



交通ルール順守の大切さを伝えるスタントマン



ミカン

収穫後の樹体管理が次年度以降の生育に影響するため、まずは冬期の基本管理を行い、健全な樹体づくりに取り組む。

◆樹勢回復

先月号でも掲載したが、マルチ被覆や木熟栽培は樹体への負担が大きいため、収穫後の樹勢回復は結実安定のために大変重要である。樹勢が弱く、対策をまだ行っていない園地については、1月中旬頃までに暖かい日を選んでチッ素主体の葉面散布剤（尿素・あざやか等）500倍液を7～10日間隔で3回以上散布して樹勢回復に努める。

◆土づくり

収量を安定させ、高品質なみかんを生産するためには、健全な細根を多く発生させ、樹勢を維持するため

の土づくりは欠かせない。

施用資材は、10^ア当たりバーク堆肥2^キ4^ト、苦土石灰100^キ、BMようりん60^キ、FTE6^キを基本とする。

◆病害虫防除

○ハダニ類・カイガラムシ類

12月に機械油乳剤95でダニ類・カイガラムシ類の防除ができていない園地では、2月に花芽分化の時期を迎えるため、1月中旬までの暖かく好天が続く日を選んで機械油乳剤95を45倍希釈で丁寧に散布する。ただし、樹勢が弱っている木や寒さの厳しい園地では落葉を助長させる恐れがあるため、無理な散布は控え、3月にアタックオイルを散布する。

（上秋津支店営農経済・撫養義雄）

梅

◆整枝・剪定

秋から剪定作業が進んでいると思うが、作業が遅れるほど不要な枝に養分が分配され、貯蔵養分の無駄遣いとなる。開花時期までには剪定作業を終了するように取り組もう。無剪定の場合、その年の着果量は多くなるが、新梢の伸長が少なくなり樹勢低下につながる恐れがある。作業が遅れ、開花が始まる場合でも必ず剪定は行おう。

◆土壌管理

梅は好石灰植物で、適正pHは6～7と高い。12月までに石灰の施用を行っていない園場では基準量を参考に施用しよう。

◆交配用ミツバチの設置

ミツバチ巣箱の設置に際しては、①日当たりの良い場所に置く②巣箱の出入口は南向きにする③雨水が入らないよう出入口をやや低くするなどの注意が必要となる。

設置中はミツバチ保護のため薬剤散布は厳禁である。また、開花前の防除も、巣箱の設置場所への十分な気配りが必要である。

◆病害虫防除

○ノコメトガリキリガ（ハナムシ）

開花期に蕾や花を食害し、多発すると結実不良になる。特に山林に隣接する園地で発生が多く見られる。多発園では防除を行おう。

○灰星病

病原菌は蕾や花に感染し枝を枯死させる。小梅品種（白王・パープルクイーンなど）が特に弱い。前年の被害枝が第一伝染源となるため、枯枝は剪除する。感染時期が開花期と



重なるため、開花前までに防除を行おう。

（中央営農経済センター・羽根巧朗）

スモモ

◆整枝・剪定

スモモの棚仕立ては開心自然形を平面化した2～3本の主枝が基本となる。現在、紀南のスモモは成木から老木の割合が高く、太枝の数が多く結果層が確保できていない園場が多い。このため太枝の数を減らし、古い枝の整理を行い、徒長枝を利用して結果層を確保するなど、枝の若返りを図る。あわせて棚の点検や古くなった棚パイプの取り替えも行おう。

（中央営農経済センター・羽根巧朗）

水稲

◆土づくり

前作の未熟な稲株や稲わらによる障害を避けるため、秋冬期に耕起し腐熟促進を行う。年内に荒起こしができていない場合は、早めに行う。また、稲わらの腐熟を促進するため、石灰窒素を10^ア当たり20^キ施用することもある。

（営農課・栗栖昌央）

野菜

◆レタス

○温度管理

この時期はトンネル被覆による温度管理を行う必要がある。トンネルの両裾を、昼間は開けて換気し、夜は閉めて保温する。また、トンネルは密閉したままだと葉の徒長やタコ足、腰高球などの原因となるため注意する。

○水管理

乾燥は異常球の原因となるため、結球期までは適宜かん水を行い、結球期以降のかん水は控えめにする。

◆ウスイエンドウ（露地春採り）

○整枝

整枝で太陽光の透過を良くすることで収量増加や病気を抑制する効果が期待できる。1畝当たり25〜30本を目標に整枝するが、霜害に遭う場合を考慮し、少し多めに残し、霜害リスクが少なくなる3月に仕上げる。

○追肥

草勢の低下は、さやの肥大を抑制するため、追肥を行う。
つる上部の新芽が出た位置から花が咲くまでの距離や節間が短くなってくると草勢が低下している目安となる。2番花が咲いた頃と、満開時を目安に追肥を施用する。

◆ソラマメ

○整枝

主枝を4〜5本に整枝した後も株元からわき芽が発生するため、見つけ次第摘み取るようにする。

○摘花

健全であれば1節に5つほど花がつくため、上側の3花は摘み取り、下側の2花を残す。
（営農課・栗栖昌史）

花き

◆病害虫防除

花きでは、低温多湿条件下で発生が多くなる病気や、活発に活動を続ける害虫があるため、気象条件に応じた対策が必要となる。

基本は、病気が発生しにくい環境にするため、ハウス・トンネル栽培では、日中の換気をこまめに行う。露地栽培では、高畝にするなどの排水対策に努める。そのうえで、薬剤防除が必要な場合は、次の点に注意して防除する。

①同じ薬剤の連続散布は避け、成分の異なる薬剤をローテーションで散布する。
②薬害防止や、薬剤効果を高めるため、晴天の午前中に散布する。
③露地栽培では、降雨後に病気が発生しやすいため、降雨直後の防除に

努める。

○アブラムシ類

低温でも活動するため、厳寒期のハウス・トンネル栽培でも発生が見られる。直接被害の他に吸汁により、ウイルス病を媒介させる恐れもあるので注意する。近年、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ等の薬剤抵抗性のある種が問題となっている。薬剤の選択と発生初期の防除に努める。

○コナガ

熱帯から高緯度地方にまで分布する害虫で、成長が早く年間発生回数も多い。低温でも成長を続ける。また、薬剤抵抗性の事例も多い。枝・茎を食害されると大きな被害となる。定期的に各種薬剤をローテーションで散布する。

○コナジラミ類

ハウス栽培では、周年発生し、年間の発生回数は10回を超える。幼虫が葉を吸汁する他にウイルス病の媒介や、多発時には、すす病による汚れが発生する。各種薬剤をローテーションで散布する。

薬剤については、営農経済指導担当者に相談する。

灰色かび病や菌核病、斑点病（トルコギキョウ）の防除薬剤については、11・12月号を確認する。

（串本支店営農経済・谷本三佐行）

花木

○ダニ類

葉の表面に濃緑色の斑点がモザイク状の症状にでる。外観が損なわれ商品価値が著しく低下する。発生時の薬剤防除が基本となるが、冬期（1月中旬頃まで）に晴天が続く暖かい日を選んでマシン油乳剤を葉裏にかかるように散布することで、春以降の発生を軽減できる。

薬剤については、営農経済指導担当者に相談する。

カイガラムシ類の防除薬剤については、12月号を確認する。

（串本支店営農経済・谷本三佐行）

※みかん、中晩柑、梅、スモモ、水稲の防除薬剤や施肥肥料は、旧JJA紀南令和7年栽培暦を確認ください

6月に植え付けた 周参見小が サツマイモ 収穫体験



すさみ町立周参見小学校は10月24日、児童らが6月に植え付けたサツマイモを約200kg収穫し、児童が持ち帰る分と調理実習で使用する分を残してアドベンチャーワールドの動物にプレゼントしました。11月4日には児童らが同施設を訪問し、アフリカゾウ等への餌やりを体験しました（詳細は15ページ）。

1/16 JA総合相談会

(弁護士・税理士による無料相談会)

- 相談会場 紀南地域本部
- 相談時間 9時～12時
- 問合せ先 金融部(☎0739-23-3516)



「第2回うめえ料理コンテスト」の入賞者ら

うめえ料理コンテスト表彰も

田辺農林水産業まつり開催



紀南地域本部も共催した「第38回田辺農林水産業まつり」が11月9日、田辺市の扇ヶ浜交流広場カッパークで開かれました。

雨天での開催となりましたが、紀州田辺うめ振興協議会主催の「第2回うめえ料理コンテスト」で入賞した小・中学生への表彰式のほか、女性会による梅うどんのふるまい、女性会や青年部、JA職員らによる農産物や加工品の販売、OXクイズ、神島高校「神島屋」による出店等がありました。

恒例の農産物品評会では215点が出揃いました。品評会の入賞者は次のとおりです。(敬称略)

県知事賞Ⅱ米田壮伺(温州ミカン、稻成)▽県議会議長賞Ⅱ関矢睦(キャベツ、三栖)▽県農林水産部長賞Ⅱ峰尚弥(甘柿、長野)▽西牟婁振興局長賞Ⅱ田中圭

オンラインショップ



紛れもない木熟の証「葉付き」でお届けします。
採れたての新鮮なポンカンをぜひご賞味ください。

ご注文はこちら



(コウヤマキ、秋津川)▽田辺市農業委員会会長賞Ⅱ田中壽一(にじのきらめき、秋津川)▽JAわかやま組合長賞Ⅱ中谷壽人(温州ミカン、上芳養)



品評会の出品物を確認する来場者

介(レモン、上秋津)▽西牟婁振興局農林水産振興部長賞Ⅱ坂本和也(しよが、秋津川)▽市長賞Ⅱ澤田和男(天梅干し、稻成)▽市議会議長賞Ⅱ原見忠雄

令和7年末～令和8年始
JAわかやま紀南地域本部

支店・事業所の年末年始営業のお知らせ

○=平常どおり営業

休=休業(休止)

☎=電話での受付(24時間対応)

時間記載=営業(稼働)時間変更

事業/日程	12/29 (月)	12/30 (火)	12/31 (水)	1/1 (木)	1/2 (金)	1/3 (土)	1/4 (日)	1/5 (月)
紀南地域本部・営農経済本部	○	○	休	休	休	休	休	○
金融事業								
支店窓口・ローンセンター	○	○	休	休	休	休	休	○
A T M	○	○	○	○	○	○	○	○
共済事業								
交通事故受付	○	○	☎	☎	☎	☎	☎	○
故障・レッカー移動受付	○	○	☎	☎	☎	☎	☎	○
購買事業								
ガスに関する受付	○	○	☎	☎	☎	☎	☎	○
中央営農経済センター	○	○	休	休	休	休	休	○
支店(店)営農経済窓口	○	○	休	休	休	休	休	○
給油所(JA-SS)								
中央・とんだ・鮎川	○	○	～18:00	休	休	8:00～17:00	○	○
日置	○	○	～18:00	休	休	休	～18:00	○
中芳養	○	○	休	休	休	休	休	○
上芳養・三栖・栗栖川	○	○	休	休	休	休	休	○
三川・佐本	○	休	休	休	休	休	休	○
販売事業								
各選果場・集出荷場	各選果場・集出荷場にお問い合わせください。							
直売所								
ファーマーズマーケット紀菜柑	○	○	休	休	休	休	休	～17:30
加工事業								
各加工場	休	休	休	休	休	休	休	○
店舗事業								
紀南地域本部のAコープ全店	○	○	○	休	休	10:00～18:00	○	○

※紀菜柑は、1～2月の2カ月間、17:30閉店となります。

※☎マークのお問い合わせ先は、右記の通りです。

通帳・キャッシュカードの紛失・盗難時	☎0120-167-831
交通事故の受付等	☎0120-258-931
レッカー移動・故障時等	☎0120-063-931
ガスの受付	☎0737-52-8864

ふれあい広場



ENJOY

セカンド
ライフ

すくすく
Memory

すさみ町周参見

しもむかい こ
下向井 まき子さん(写真中央)

気軽に集い、食を通じて元気になれる そんな場を作ろうと「地域食堂」を運営

すさみ町で地域食堂を運営しています。立ち上げの際もあまり「困難」とは感じず、あるもので工夫しながら始めました。地域の皆さまの協力に支えられ、今では昼と夜それぞれ月1回、さらに遠隔地域へ出張食堂や、自立運営を目指した「Qola食堂」も月1回開いています。

食材は町内の農家や漁師から仕入れ、野菜くずは畑に戻して再び食堂へと循環させるといった、自然とのつながりを大切にした取り組みも行っています。

食を通じて、人・山・川・海・畑がひとつにつながり、笑顔がめぐる町へ——。その思いを原点に、持続できる仕組みをつくっていききたいです。



上富田町朝来

にしした しゅう
西下 柊くん(1歳)

何にでも興味津々！ 活発に成長中/ 産まれたての弟を「よしよし」も

明るくて活発という柊くん。最近は保育園にお迎えに行くくと駄箱から自分の靴を持って走ってきたり、「これして」や「あれ取って」などと言うと理解してくれるようになってきたんだって。とにかく何にでも興味津々で、今はアンパンマンが少し気に入り始めたみたい。

10月に弟が産まれたから、お兄ちゃんになったんだ！まだ小さな弟の頭を「よしよし」って撫でてあげたり、かわいがっているんだって。

ご家族から一言

とにかく健康で、
元気に育ってね。

今月の きなん産地人

生産者
紹介

田辺市中芳養

ひらやま のぼる
平山 昇さん

応援隊の協力でマルチ被覆を開始



就農11年目、現在は梅40畝、ミカン1畝、スモモ10畝を栽培しています。就農前は会社員をしていましたが、実家で農業を続けていた両親が高齢となってきたこともあり、農家の長男として「このまま廃業するのはもったいない」と決意しました。

昨年からはミカンのさらなる品質向上にと、マルチ被覆を開始。作業はJAの選果場従業員らで構成する「マルチ被覆応援隊」に依頼しており、本当に助かっています。

最近の思い出は、10月13日に閉幕した「大阪・関西万博」に行ったこと。フィリピンパビリオンが特に印象深かったです。また野球観戦が好きなので、大谷翔平選手の活躍にはいつも注目しています。

地域本部の

JA職員です



中央営農経済センター
営農指導担当(新庄地区)

はね たくろう
羽根 巧朗さん

家庭菜園を楽しんでいて、タマネギとブロッコリーを栽培中です。今後は葉物野菜のトンネル栽培に挑戦してみたいです。



総合選果場
荷受け担当(新庄集荷場)

こやま たいが
小山 泰加さん

段取り等で迷惑もかけましたが、何とか梅の荷受け作業を終えることができ、達成感に満ちています。趣味は釣りで、これまでの一番の大物は85斤のブリです。

